

特別の教育課程の編成方針等について

1. 特別の教育課程の概要及び編成方針

本市では、平成24年度より、小学校第1学年～中学校第3学年において小中9年間の一貫した英語教育を行っている。グローバル社会に対応し国際社会で生きる力を身に付けるために、小学校第1学年～6学年において、教科「英語科」を設定し、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、特別の教育課程による指導を実施している。

現在、1学年は生活科を34時間、2学年は35時間を削減して英語科に充てている。また、モジュールプログラムによる英語科を1学年は34時間、2学年は35時間の増設をし、45分の授業の中で学習した内容について、短い時間の中で、楽しみながら繰り返し英語の音声に慣れ親しめるようにしている。

3、4学年は、総合的な学習の時間35時間と外国語活動の計70時間を削減して英語科に充てている。この内35時間をモジュールプログラムによる英語科に充て、音声と綴りを関連付けるための「読むこと」「書くこと」の活動を行えるようにしている。

5、6学年は英語科を45分の授業として70時間実施し、1～4学年までの英語科での学びを生かした体系的な学習を行っている。身近な事柄について扱う言語活動や音声及び発音と綴りとを関連付ける指導を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するとともに、中学校へのより円滑な接続を目指している。

2. 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成する必要性

本市では、英語教育の目的は、子どもたちが全人的に成長し、グローバル社会において主体的に生きていく資質や能力を身につけることであると考えている。そこで、単に能力や技能といったスキルの習得だけではなく、コミュニケーションの体験を通して、異文化を理解し、国際社会に貢献できる児童・生徒の育成することを目指している。

そのため、平成18年度より、全小学校において英語活動に取り組むとともに、中学校では小学校英語との接続を踏まえ英語指導の充実を図ってきた。また、平成21年度から23年度にかけて文部科学省の指定である「教育研究開発事業（英語教育関係）」に取り組み、指定中学校区内の小中学校3校において、小中9年間のつながりを重視したカリキュラムを開発、策定し、英語によるコミュニケーション能力の育成を図った。平成24年度には指定地域、平成25年度からは市内すべての小学校における第1学年～6学年で、教科「英語科」を取り入れた独自の教育課程を実施している。

3. 特例の適用開始日

令和2年4月より

4. 取組の期間

令和12年3月まで



サルビア

令和5年1月31日

第64号

～後期学校評価アンケート結果～

お忙しい中、後期学校評価アンケートへのご回答ありがとうございました。アンケート結果を以下のとおりご報告いたします。

1 評価結果（全体）

(%)

領域	設問 番号	評価内容(一部省略)	児童(3～6年)		保護者	
			A B評価の合計		A B評価の合計	
			前期	後期	前期	後期
I 連携	1	学校からのお便りは、情報伝達に有効か			97	95
	2	学校行事への参加			100	100
	3	学校（先生）に相談しやすいか	92	96	90	90
II 確 かな 学 力	4	わかる授業を目指した、指導になっているか	93	94		
	5	学習の理解度は良好か	93	94	87	86
	6	先生は子どものよさを支援しているか	95	95	96	93
	7	家庭学習は定着しているか	84	88	71	69
	8	読書は好きか	93	92		
	9	英語の学習に意欲的に取り組んでいるか	90	84		
III 豊 かな 心	10	あいさつはできているか	93	95	80	79
	11	学校生活が楽しく送れているか	95	94	97	96
	12	こども(自分)は相手のことを考えた言動がとれている	95	95	97	98
	13	子どもはきまりを守り、係活動等をしている	97	96	92	92
IV 健 康	14	食事や睡眠等、規則正しい生活が送れている	88	86	88	83
	15	体を動かした健康的な活動が進められているか	80	81	87	83
	16	健康保持や治療等の推進が行われているか	96	94	97	99
V 安全 確保	17	施設管理や避難訓練で安全指導は行われているか	98	98	96	97
	18	歩行や自転車等の安全指導は行われているか	99	98	90	87
VI 将来	19	将来の夢を育む学校の指導は工夫されているか	99	91		
	20	夢や希望について家庭での会話は行われているか	81	78	83	78

※ アンケートの集計の割合(%)に、A：そう思う、B：大体そう思う、C：あまり思わない、D：思わない があります。集計結果の良否はAとBの評価の合計で示しました。アンケートを取らなかった項目は、斜線となっています。

※ A B評価合計の割合が80%に達している項目については、現在の指導を継続して行おうと考えています。また、80%に満たない項目については、裏面に「2 今後の取組」を記しました。ご一読ください。

2 今後の取組

(1) 「II 確かな学力」について

○ 設問7 (家庭学習は定着しているか)

「家庭学習の定着」はここ数年の本校の学校評価でも課題になっている項目です。先日「サルビア61号」でもお伝えしたように、「子ども未来会議」では「自分たちの生活をよりよくするには」という議題で各小中学校の代表児童生徒による話し合いが行われました。その中で「自分たちの時間の使い方を見直そう」という意見も出されました。特に、具体策として「ゲームや動画視聴の時間を減らし、家庭学習の時間にあてていこう」という考えが多くのグループから出てきました。小学生だけでなく、中学生も家庭学習への取り組みは課題ととらえているようです。

「自主学習ノート〇冊目」「漢字ノート〇冊目」と前向きに取り組んでいる児童も多いです。

「宿題忘れ0」を目指している子もいます。タブレットを活用してe-ライブラリーやタイピング練習をがんばっている子もいます。低学年は宿題にしっかり取り組むことを基本とし、発達段階に応じた家庭学習へつなげていければと考ます。ご家庭でも、テレビのスイッチを切る、ゲームの時間を決める(決めたら、守る)など、今後とも学びに向かう環境づくりにご協力ください。こんな言葉をぜひ子どもたちにかけていきましょう。「すごいねえ、がんばってるねえ」

(2) 「III 豊かな心」について

○ 設問10 (あいさつはできているか)

「おはようございます」の元気な声を聞くと、朝のスタートを気持ちよくきることができます。「さようなら、また明日」と声をかけると「先生、さようなら」とはずむように声が返ってます。「元気な挨拶ありがとう」と声をかけることも多いです。もちろん、子どもたちそれぞれに、その日の気持ちがあって挨拶の声が聞こえないこともあります。「マスクの下できっと唇は動いたんだろうな」「目でアイコンタクトはできたな」など考えることもしばしばです。今後も児童主体の「あいさつ運動」を展開したり、「みんなの挨拶は周りを元気にするよ」と伝えたりしていきます。そして、私たち教職員も挨拶に率先垂範で取り組みます。

(3) 「VI 将来」について

○ 設問20 (夢や希望について家庭での会話は行われているか)

国語、社会、生活、家庭、体育、総合的な学習の時間(ふるさと学習)等の学習にかかわって、将来の夢や仕事について考える機会を大切にしていきます。様々な体験活動もお子さんが好きな学習や得意なことを見つけられる機会にしたいと考えます。ご家庭でも、ぜひ楽しかった体験等を話題にしてみてください。

3 保護者のご意見から

「児童への指導」「学年・学級経営について」などいただいたご意見や改善案等については、教職員で検討・共有し、ご家庭のご理解をいただきながら工夫改善してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。

今後とも、本校の教育活動にご理解ご協力をよろしく願いいたします。

